

EVENT MARKETING 90

発行所：株式会社 MICE 研究所
〒105-0004 東京都港区新橋 5-12-9 ABCビル 4F-A
TEL.03-6721-5303 sof@event-marketing.co.jp

特集 イベントの集客とブランディング

TOPICS 「BESydney アジア助成金」を発表
日本からの MICE 誘致を強化



特別企画
三菱地所株式会社
コンテンツビジネス創造部
兼 コマーシャル不動産戦略企画部 主事
鈴木 将敬 さん

TAKE FREE

www.event-marketing.co.jp

動き出した2023



©Destination NSW

入国規制緩和により、いよいよビジネスイベント市場も 2023 年には本格的に復調の動きが加速していきそうだ。

今年後半には国内の MICE 先進地域の沖縄や北海道の商談会が東京でもリアルに開催された。沖縄では九州と連携したキャラバンを展開したり、北海道では東京開催の直前に少人数での現地 FAM トリップを実施したり、

創意工夫をしながらニーズへの深化した提案が図られている。

海外からも、日本の MICE 主催団体・パートナーを対象にしたキャンペーンが展開され、今月 12 月には、オーストラリア・シドニーからビジネス・イベント・シドニー (BESydney) が来日し日本からの MICE 誘致を強化している。(5p 参照)

受け入れる側は着々と下準備を進めているなか、共通する傾向としては、少人数～中小規模人数制のニーズにも対応する、きめ細やかなアテンドだ。食事ひとつでも、大型バンケットで大人数に対して一斉にサーブできることがこれまでの誘致要件のひとつだったとしたら、これからは分散型プログラムの醸成と中小規模の満足度高く、交流度の高い現地体験

の提供がより必要となってくる。地産地消のメニュー提供は、陸や海の豊かさにつながる地域内消費、食品ロス対策といった SDGs への取り組みとも付合していく。

外部からミクロな魅力が発掘され発信されていく路上の大航海のような、日常の探検が非日常の提供へとつながる冒険のような、そんな動きを 2023 年も面白がりたい。

オンラインでも オフラインでも、

**ビジネスイベントのお悩みは
イベントレジストにお任せください!**



申込受付を統合管理

- ・ウェブ事前受付、オンライン決済
- ・イベントへのスマートチェックイン
- ・動画、ライブ配信の申込者のみの視聴制御



ワンストップで対応可能

- ・企画 ・会場手配 ・デザイン / 施工
- ・運営進行 ・撮影 / 映像 / ライブ配信
- ・申込サイト制作



ビジネスイベントの実績多数

- ・カンファレンス ・セミナー ・展示会
- ・ウェビナー ・オンラインイベントなど



イベントレジスト株式会社
<https://eventregist.com>

資料請求・お問い合わせ
contact@eventregist.com



イベントの集客とブランディング

広告、メール、電話、オウンドメディア、SNS、DM、チラシなどさまざまな告知ツールや手法があるものの、主催者の悩みの大部分を占めるのが、どうやって参加者を集めるか。本特集では、イベントの成否をわける集客のポイントについてまとめた。

城が街の広報担当になる イベントマーケティング

「Art+ 高知城ひかりの花図鑑—牧野富太郎と植物を愛した画家たち—」

12月2日から開催されている高知城をキャンパスにした光の祭典。4年目の今回は「Art+ 高知城 ひかりの花図鑑—牧野富太郎と植物を愛した画家たち—」と題して、高知ならではのコンテンツとして好評を博し、県内外から多くの来場者を集めている。その集客の施策について同イベントをプロデュースする、シンユニティグループの長崎英樹さんにうかがった。

高知城の光の祭典、過去3年はチームラボ、ネイキッドが手がけ、認知度が高いコンテンツで集客を行った。

4回目となる今回は、4月から放映されるNHK連続テレビ小説が高知出身の植物学者である牧野富太郎博士を主人公のモデルとし

ていることもあり、博士の植物画をモチーフに、高知ならではの完全オリジナルなコンテンツとなった。

このナイトイベントは、高知県の観光キャンペーン「リョーマの休日」の一環として、冬場観光需要の拡大やナイトタイムエコノミー活性化、地域への周遊と滞在を促すため、日本三大夜城として知られる高知城で実施するもの。

東京など都心で体験できる有名メディアアートは地元からの来場を促すが、県外から



長崎 英樹さん
シンユニティグループ
株タケナカ 専務取締役



天守閣のほか 城内各所に花と植物の絵画を題材にしたメディアアートが投影された。

の観光客誘致が課題だ。ここでしか見られない高知ならではのコンテンツが有効と期待が集まる。夜の高知城は、坂本龍馬、カツオに続く高知の観光資源となるのか。

**地元文化との繋がり
参加感高める相互性**

牧野博士の植物画と、同時代の西洋の画

NISHIO

RA(イベント)部門の新しいWEBサイトがOPENしました!!

<https://www.nishio-rent.co.jp/rental/>

TOTAL POWER by NISHIO

YouTubeチャンネル

はじめました

イベントマーケティング

研

Venue
Event
Community

集い、交わる場(中規模スペース・ベニュー/イベント主催者)を企画・運営するひとたちが集まって、べちゃくちゃおしゃべりしながら、よりよいベニューづくりを考えるコミュニティ

家の絵画の共演は、シンユニティグループが HANA・BIYORI で展開する花とデジタルの アートショー「Art +」からの着想だったが、調べるうちに、高知県には北川村「モネの庭」マルモットンという庭園があることも分かった。アカデミックアートとデジタルメディアの融合、多面的な地元文化との繋がり、高知以外にも多数の地域観光振興のメディアアートイベントをプロデュースしてきた長崎英樹さんがもっとも大切にしていることの一つだ。

インタラクティブなしなかりには、大阪の太陽の塔や神戸ポートタワーでは子供たちが描いた絵を投影させるなど、これまでのプロジェクトでもハートウォーミングな体験を提供し、集客、満足度、認知度の向上や、SNS の拡散に活用してきた。今回の高知城の光の祭典では「高知城植物図鑑」を実施。城内に投影された花のイラストを採集（撮影）し、オリジナルの植物図鑑を作るアプリ。三の丸で集めた花の演出映像を楽しんだり、花々と自分の写真を撮り、自分だけの夜の高知城として思い出を持ち帰ることもできる。

認知度向上による陳腐化と 高品質担保する錯視の演出

長崎さんは、10 年以上にわたりプロジェクト マッピングを手がけてきたが、言葉の認知度が上がり、誰もが知るようになった反面、陳腐化も進んだと感じている。映像をスクリーン以外に投影するだけのものも、そう呼んで

集客につなげようとするプロジェクトが増えたことで、参加者の期待感、ワクワクは年々減っている。

高品質な映像・音響による演出を行うことが必要という考えのもと、最低1つは新しい技術や手法を採用している。今回は植物図鑑の他に超微細ミストを用いた光の演出を行った。浮遊時間の長いミストにより柔らかい光のような、煙のような表現を可能にしている。

ビューポイントを限定することで、高い錯視効果を出す、立体感のあるコンテンツは、見る人の心を動かす演出だ。高知城入口階段の「花手水の階段」は美しい川の水が階段の上をゆったりと流れ、心癒されるコンテンツ。有料エリア近くに興味を誘う演出を配置し、チケット購入への最後の一步を後押しする。

また、地元テレビ局や関連専門誌の記者を招待して、内覧会で見どころを紹介したり、交流するなど、メディアへの協力体制も整えている。SNS やデジタルマーケティングなどの手法も重要だが、コンテンツの企画・制作の段階で、ステークホルダの巻き込みやブランディング戦略を前提として進めているからこそ、効果が見込める。

観光には、縁のある人物の地を訪れる、食を楽しむといった既知の情報の再確認もあるが、未知の発見も醍醐味の一つだ。新たな発見は人にも言いたくなる。そんな心理を伝えやすい仕掛けにしたイベントは地域の観光への集客装置であり、ブランディング戦略のツールにもなっていた。

プレイベント・ウェビナーで 集客+アルファの効果

「グリーンマテリアル2023」

初開催のおよそ半年前、7月27日に実施した「グリーンマテリアル初開催記念ウェビナー」は、550人の聴講申込枠がすぐに埋まり、申込受付を終了した。早稲田大学の客員教授やトップ企業の担当者が、環境とものづくりを両立させる最新情報を提供しただけでなく、素材・資源の分野の環境対策への関心の高さが、予想を上回るものだった。

関連業界団体への働きかけ、既存展示会の来場者への同時開催展として告知、オンライン広告も手がける広報担当の結城歩実さん。ウェビナーの成功は初開催への手ごたえを感じただけでなく、大きな役割を果たしたという。

直接的な集客への貢献としては、その分野に興味・関心が高い、来場者誘致のコアとなる層のリードを得たこと。これまで会場にはいかにオンラインでの情報収集がメインのユーザーにもリーチできた。来場者の数だけでなく、商談に直結する課題解決の意識が高い集客につながりそうだ。

また業界トレンドに関心の高い層への情報発信やコミュニケーションをとることで、展示会の方向性や企画のアイデアへの窓口にもなっている。

ハイブリッド開催だけでなく、事前ウェビナーなどオンラインイベントの活用範囲は広そうだ。

「ひと・社会・地球」のためのモノづくりを世界に。」をテーマに「グリーンマテリアル」が2023年2月に初開催するのを記念し、ウェビナーを実施します。

サステナブルな社会を目指す企業の取り組みが必要不可欠となっている今、環境に配慮したモノづくりへの関心が高まっています。当展示会においても「脱炭素・環境対応」に関連のある出展製品数はここ2年で約3.3倍まで増加しました。

本ウェビナーでは、第一線で活躍する講師3名をお呼びして、ここでしか聴けない講演をお届けします。ぜひご参加をご予定ください。

展示会事務局一同



結城 歩実さん
グリーンマテリアル 2023
広報担当
株式会社 JTB コミュニケーション
デザイン

初開催記念セミナーは満員御礼に

展示会・イベントの 持続可能な未来を目指して

国内最大級のディスプレイ製作スタジオ

ワンストップの製作体制を完備

- プロジェクト企画
- デジタル施策
- 装飾・施工
- イベント運営
- 空間設計
- ビジュアルデザイン

SHOEI 株式会社昭栄美術
〒104-0044 東京都中央区明石町8-1 聖路加タワー25F TEL:03-5148-6651

イベントスペース 運営会社合同説明会

12月22日、盛況のうちに終了しました
第2回開催は2023年6月ごろ開催予定です
またのご参加よろしくお祈いします

イベントスペース運営のお仕事を知らず！

現場の声を聞くチャンス！

イベント業界のいま！

イベントを仕事にする



会期中 47 本のリールを投稿。撮影には一眼レフカメラを使い、動画のクオリティにこだわった。

コーヒーに特化したイベントとしてアジア最大の国際見本市「SCAJ ワールド スペシャルティコーヒー カンファレンス アンド エキシビジョン 2022」が、2022年10月に東京ビッグサイトで開催された。イベント会期中は Instagram の運用を動画投稿に絞り、世界観を共有する流れに変更。それが功を奏し、新規フォロワーの増加、1記事の再生回数が5万回を超える*など、裾野の広がりに貢献した。今回広報PRを担当した宮田早希恵さんにポイントを聞いた。*会期終了時

SNS刷新 動画投稿に絞り 情報発信から世界観共有へ

「SCAJ ワールド スペシャルティコーヒー カンファレンス アンド エキシビジョン2022」(SCAJ2022)

開場を待つ機列や、来場者が入り口でマップを次々に手に取り出展者ブースへと足早に歩みを進める様子などを組み合わせ、小気味よく動画が展開していく。

「SCAJ2022」のオープニングの様子を収めた Instagram のリール投稿(写真左)では、約20秒というわずかな間に開会式挨拶からエンドマークの SCAJ のロゴまでを含め13シーンの短い動画と内容に合った音楽とともに編集された1本の動画として、展示会がはじまった臨場感を表現する。リール一覧では、会場での一瞬一瞬を切り取り、丁寧に仕上げた動画を展開する。

「SCAJ」では、今年から Instagram での SNS 施策を刷新。イベント会期中は動画による世界観の共有へと転換した。広報PRで SNS 運用を担当した宮田さんは「SCAJ は、今回17回目の開催で、スペシャルティコーヒーを愛する方のコミュニティのような展示会です。最近では一般のお客様でも、コーヒーに対する並々ならぬ情熱を持っている方が多く、そういった方にもスペシャルティコーヒーや、SCAJ のことを広く知っていただきたく、

BtoC マーケティングも視野に入れた SNS 展開に力を入れました」と背景を説明する。

具体的には、以前主流としていたイベント日時などを記載したテキストメインの投稿を、写真や動画をメインに楽しんでもらえるものに切り替えた。Instagram の強みは視覚的にプロダクツのクオリティ・世界観を表現できる点だ。その利点を活かし、記事のイメージを刷新した。

会期中は動画での訴求に振り切った証左に、ストーリーを43本、リールを47本アップロードし、写真の投稿は行わなかった。また、Twitter と Facebook において、Instagram のリールの URL を共有し、アクセスがそちらに集中するようにした。結果的に、会期前の10月10日(月)から1週間で1513名のフォロワーが増加した。(刷新開始5月20日時点でフォロワーは5035名、会期後は8548名となった)

会期中、撮影ができる時間は20時間。限られた時間内に、なるべく多くの本数をアップするため、動画のカメラマン、編集者、宮田さんの3人でチームを組み、撮影スケジュールを

「SCAJ ワールド スペシャルティコーヒー カンファレンス アンド エキシビジョン2022 (SCAJ2022)」概要

会期：2022年10月12日(水)～14日(金)
10:00～17:00(最終日は16:00まで)
会場：東京ビッグサイト 西3・4ホール
主催：一般社団法人 日本スペシャルティ
コーヒー協会

綿密に計画して、SNS 運営体制を整えた。

「リールでは、ブース全体の引きの画や、器具の詳細が分かるような寄りの絵、コーヒーが注がれる時の湯気が映るようなシズル感のある画などを、ポケみを活かした映画のような雰囲気撮影しました」

24時間で消えてしまうストーリーズとは違い、リールはフィードに残るため、サムネイルのクオリティにこだわったという。

臨場感=ライブ配信、世界観=時間をかけた編集を後日配信と切り分けて考えがちだが、ショートムービーでこだわりの動画を即時発信し、両方ともを伝えるということをかねえた、最適化した好例ではないだろうか。



宮田 早希恵さん
SCAJ 展示会
広報 PR 担当

映像・音響・照明・ICTソリューションなど様々な技術を融合した総合コンテンツパッケージをご提供いたします。Real & Virtual Experience Provider として、リアルとバーチャルの両面から新たな価値を創造します。

SYMUNITY GROUP

SYMIRECT ТАКЕПАК ТЕРМОС АРК VENTURES Tasc Service SymX Inc. PRESSTONE

face to face を科学するイベントメディア

オンラインも強い EVENT MARKETING

最新ニュースやアーカイブ、
バックナンバーも読めるウェブサイト



特集記事の裏話や
イベマケ編集部の
日常がわかるメルマガ

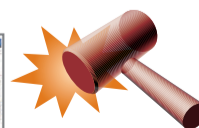


<http://www.event-marketing.co.jp>
Facebook と Twitter もやってます



イベントを、もっとラクに、
もっと楽しくできるはず

いま、イベントバズールは、皆さまのお役に立つため、さらに見やすく、さらに情報を増やして、生まれ変わろうとしています。



<http://eventbuzzle.com>

ただいま、リニューアル中
もう少々お待ちください

「BESydney アジア助成金」を発表

日本からの MICE 誘致を強化
ビジネス・イベント・シドニー
(BESydney)

ビジネス・イベント・シドニー
クライアントエンゲージメント担当
エグゼクティブ ジェネラル マネージャー
クリスチャン・ニコルスさん



12月2日、ビジネス・イベント・シドニー（以下、BESydney）のミッションが来日し、「2023年度ビジネス・イベント・シドニー・キャンペーン」として展開するアジア MICE マーケットを対象とした新しい助成金制度「BESydney アジア助成金」を発表。MICE 案件を扱う旅行代理店やパートナーを対象に、シドニー最新事情やシドニーが MICE 開催地として選ばれる理由などに関するプレゼンテーションを行った。



新館が増設され、様々なイベントに対応できるよう約2倍のスペースに拡張された「The Art Gallery of New South Wales」 (@AGNSW)



シドニー・ハーバー・ブリッジの頂上まで案内する「BridgeClimb Sydney」 (@BridgeClimb Sydney)



シドニー都心部にあるロイヤル・ランドウィック競馬場に新たにオープンした大規模なイベント会場「The WINX Stand」 (@Australian Turf Club)



インセンティブ・企業グループ向けのスーパーヨット「The Jackson」は500名収容できる (@The Jackson)



2023年に50周年を迎える「Sydney Opera House」 (@Sydney Opera House)

「日本と韓国はシドニーにとって重要な市場。今回の来日を通してシドニーの独自のビジター体験が変革し続けていることを共有したい」とBESydneyのクリスチャン・ニコルスさんは来日の目的を説明する。同

組織で15年以上にわたってMICE誘致に取り組み、市場動向を注視し続けてきた彼は、「2カ国の入国規制緩和によるビジネスイベント市場の回復を感じている。以前のレベルに戻るには時間を要するが、航空会社

の座席供給の増加と検疫要件の緩和を受け、問合せ段階ではポジティブな兆しが見受けられる」とMICE需要の復調に期待を寄せる。

市場回復をさらに後押しするため、今回、BESydneyでは2023年度限定でアジア MICE マーケットを対象とした新しい助成金制度「BESydney アジア助成金」を発表した。対象となるのは、2023年4月から2024年3月の期間、3泊4日以上滞在を予定する100名から400名のMICE団体で、昨今の分散型MICEプログラムにも対応し20名×5班などの参加者分割型MICEにも適応する。助成金は1名当たり50豪ドル(およそ4,640円*12月19日現在のレート換算)。

オーストラリアはコロナ対策で封じ込めに成功しており、ニコルスさんも「街では皆マスク無しで過ごしている」と話す。3年ぶりに開催

した光の祭典「Vivid Sydney」には250万人の来場も記録し、来年は5月26日から6月17日の開催を予定。また、米国オースティン発祥の「SXSW」が2023年10月、シドニーに初上陸することも大きな話題となっており、都市を活用した大型イベントの前例はMICE誘致にも影響がありそうだ。

「BESydneyにとって、中小規模向けのMICEでは初となる助成金制度は、市場を活気づかせていきたいという表れの一つ。今回の来日を通し、成長市場である日本の主要クライアントに直接伝えなかった」とニコルスさんは言葉に力を込める。

助成金の申込み受付は、2023年2月8日から4月6日まで(＊)。今後、FAMツアーなどの企画もあるという。(＊)申込み状況により締切日が早まる可能性あり。

DMO 設立 1 周年記念
シンポジウム、コンテ
ンツ体験実施

DMO 芝東京ベイ

DMO芝東京ベイは、DMO設立1周年を記念し、同エリアでのMICE開催を想起できるようなイベントとして「DMO 芝東京ベイ Collection ~The Unique Place In Tokyo 2022~」を12月14日・15日の2日間、浜松町・竹芝・芝浦エリアの9か所で開催した。

オープニングシンポジウムでは、「これからのMICE開催・誘致について考える」をテーマに、東京ポートシティ竹芝ポートホールで、最新のVRアート×伝統的な八丈太鼓のコラボパフォーマンス、グローバル展開の視線から、ICSのシンガポール支社長基調講演、DMO芝東京ベイの会員による魅力セッション、日本の魅力を高める拠点間連携トークセッション、都内DMO団体による都市間連携トークセッションを実施。シンポジウム後にはサステナブルなフードの軽食も提供した。また、コンテンツ体験では、芝大神宮での写詞体験、RED° TOKYO TOWERでのe-sports体験、竹芝地区船着場からの東京ベイクルージング、東京タワーでの朝茶の湯体験など、7つの特別な体験プログラムを用意した。

「2021年 JNTO 国際
会議統計」
参加者総数 過去最低に

日本政府観光局 (JNTO)

12月9日、日本政府観光局(JNTO)は、「2021年 JNTO 国際会議統計」を発表した。2021年に日本で開催された国際会議の参加者総数は、前年比42.6%減の55,221人(うち外国人参加者数750人)で、現行基準での統計では過去最低となった。開催件数は、前年比86.9%減の29件。なお、2019年比では参加者総数が97.2%減、開催件数は99.2%減となっている。

助成金対象と条件

- 2023年4月～2024年3月の間に開催
- 最低3泊4日滞在予定
- 100～400名のMICE団体*
- 1名様当り \$50豪ドル
- 400名以上の場合は、個別にご相談の上、規模等に応じて金額を決定する

*参加者分割可、例えば20人×5班など

*助成金の申込み受付は、2023年2月8日から4月6日まで(申込み状況により締切日が早まる可能性あり)

EVENT MARKETING

FREE PAPER

読者Profile

大手メーカー・メーカー

▶年間イベント件数: 約20件
デジタルマーケティングとオフラインを組み合わせて販促とファンづくりに

**製薬会社
ミーティングプランナー**

▶年間イベント件数: 100件超
業界のファーストムーバーとして異業種のトレンドを知り講演会に活かしたい

**IT企業向け
マーケティングサポーター**

▶年間イベント件数: 約150件
イベントマーケティングに関わるテクノロジーやツールについて情報収集したい

特集

イベントマーケティングのトレンドを国内外の事例や動向から分析し、メーカー・イベントの皆さんと共有します。

国内・海外ニュース

ツールやテクノロジーの最新情報、開催直前概況・事後レポートなどを紹介します。

コラム

幅広い視野と独自の視点、経験をもつ著名人が執筆します。

インタビュー

リアルコミュニケーションを楽しくをテーマに話題の方々ほか、インベーター、イベントメーカー、主催者の声を収録。

調査・レポート

効果測定や開催状況の集計、効果最大化の手法など、face to faceを科学するレポートをお届けします。

毎月30日発行

定期送付申し込み

発行所: 株式会社 MICE 研究所
〒105-0004 東京都港区新橋 5-12-9
ABCビル 5F
TEL03-6721-5303
sofu@event-marketing.co.jp

展示会 開催宣言!

コンバーティングテクノロジー総合展

ハイブリッド開催で購買プロセス全体をカバー



竹田 仁士 さん
(株) JTB コミュニケーションデザイン
事業共創部 トレードショー事業局 営業 2 課

コンバーティングテクノロジー総合展は、フィルムやシート状のものを切ったり貼ったり、加工するコンバーティング技術の最新技術・材料・装置に関する展示会です。技術情報誌「コンバーテック」を発行する加工技術研究会と共催で私ども JTB コミュニケーションデザイン (以下 JCD) が開催しています。
1987 年 4 月に「国際コンバーティング機材展 (CMM JAPAN)」として初開催。2015 年頃から「Converttech JAPAN」に改称。2 年前からコンバーティングテクノロジー総合展の名称で実施しており、今回は加工機械、技術の総合展「CONVERTECH」、機能性マテリアルの総合展「新機能性材料展」、フレキシ

「コンバーティングテクノロジー総合展 2023」が 2023 年 2 月 1 日から 3 日まで東京ビッグサイトで、前年 12 月 1 日から 2023 年 2 月 28 日までオンラインと、ハイブリッドで開催される。(株)加工技術研究会と共催で、同展の企画・運営を手がける JTB コミュニケーションデザインの竹田仁士さんに、同展が業界に果たしてきた役割や、展示会の特色、今回の見どころなどをうかがった。

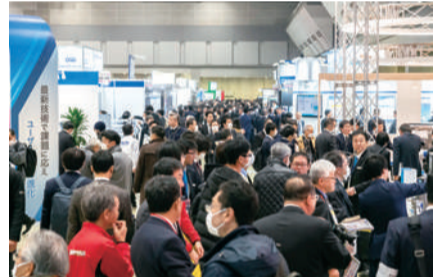
ブルデバイスの専門展「JFlex2023」、意匠と機能を融合して新しい価値を生み出す加飾技術の展示会「3DECO tech」、今回初開催のバイオプラスチック・リサイクルに関する専門展「GREEN MATERIAL」の 5 展に拡大して開催しています。

3か月の継続開催で出展者の活動が線に

リアル開催の会期を挟んで前後約3か月にわたってオンライン展を実施しています。来場者は新製品情報やスペック情報や商品の解説動画、デモ動画も閲覧でき、探したい企業や製品の情報収集が長期に渡りできるという点で利便性が飛躍的に向上されました。下調べを行ってから会場を訪れるため、効率的な視察と綿密な商談が行われます。出展者側も来場者の情報・要望を把握して的確なア

プローチができると好評です。また、会期後も商談のフォローアップなどオンライン展でコミュニケーションが続けられています。

これまでの展示会は数か月から1年におよぶBtoBの購買プロセスで、重要な一部分を担う存在でした。ハイブリッド開催になったことで、提案、商談、見積、契約と、企業の営業・販促活動全体を広くカバーできるようになりました。これは私たちが出展者や来場者に貢献



会場の様子

開催概要
名称: コンバーティングテクノロジー総合展 2023
会期: リアル展 2023年2月1日(水)~3日(金) / オンライン展 2022年12月1日(木)~2023年2月28日(火)
会場: 東京ビッグサイト 東1~5ホール
入場料: 無料、完全事前登録制。
同時開催: nano tech 国際ナノテクノロジー総合展・技術会議、脱炭素エネルギーイノベーション総合展

できる一つの価値だと感じています。

業界に寄添う JCD らしさを同時開催展の横軸に

会期中は「nano tech 国際ナノテクノロジー総合展・技術会議」、「脱炭素エネルギーイノベーション総合展」など、全 14 展示会が同時開催されます。JCD は、実行委員会を組織し展示会を主催するほか、共催するなどさまざまな形で展示会のプロフェッショナルとして、業界ステークホルダーの皆様とのハブのような存在となり、合同企画など横断的に実施することで相乗効果を発揮しています。社内では、展示会ごとにチームがあり、企画から集客、出展者サポート、当日の運営まで、出展者や来場者の方々と近い距離感で展示会をつくりあげています。
今回は GREEN MATERIAL が初開催となります。業界内での最新の取組みの他、弊社でも取り組んでいる SDGs の知見も活かしたいと思います。そのあたりもご注目ください。

イベントの成果を最大化する イベント・アーカイブス
取材 記事作成 写真撮影 動画撮影 ニュース配信
イベント専門出版の取材力と発信力、撮影・編集のプロフェッショナルとのネットワークを活かし、自社セミナー、新商品発表会、展示会出展などの、プロモーションの様子を再編集し、アーカイブ・編集することで、イベントの出展効果を最大化できます。

展示会 イベント スケジュールは Web で無料の
イベントマーケティングウェブサイトへ
https://www.event-marketing.co.jp
9月~12月の展示会・イベントスケジュール
10月の展示会・イベント
東京・名古屋・大阪・神戸・京都版 全国版
イバマケスケジュール5つの特長
1. 無料、登録不要で、いつでもアクセスできる。
2. 一覧表と詳細表示が切り替えできる。
3. 月ごと、地域ごと、毎週のスケジュールが確認できる。
4. 展示会以外のイベント情報も掲載
5. イベント情報の掲載も無料
運営会社: 株式会社 MICE 研究所

EVENT MARKETING からの大事なお知らせ
BACKSTAGE 2023 の歩き方
次の 1 月 31 日号で特集します
私も復活&変身よ♥
2月28日号 空間ディスプレイ特集
3月31日号 イベント会場特集
4月30日号 SDGs 実行白書-イベント編/映像特集
5月31日号 復活イベントの食
6月30日号 海外イベントへ行こう
広告出稿の問合せはこちら ▶ 株式会社 MICE 研究所 info@event-marketing.co.jp (担当: 田中力)

復活開催

宮坂副都知事、全日本プロレス ヨシタツ選手が登場！

「BACKSTAGE2023」まで待てない



配信中のコンテンツはこちら



宮坂 学さん
東京都 副都知事



ヨシタツ選手
全日本プロレス



栗栖 良依さん
認定 NPO 法人スローレーベル
理事長 / プロデューサー /
企画・制作・運営サービス



蓮沼 執太さん
音楽家



高橋 嘉尋さん
プライングスタジオ株式会社
代表取締役 CEO



曾我 浩太郎さん
VISIONGRAPH Inc./
未来予報株式会社
Co-founder/Project Designer



Natsukoさん
NFT Tokyo
ファウンダー



宮下 大佑さん
株式会社チケミー
CEO

＜読者プレゼント＞
読者限定でチケット30% OFF
キャンペーンを実施！
上記QRよりチケットページへ。
プロモーションコード入力欄に下
記コードを入力して申し込もう！
▼30% OFFコード
evemake23

2月9日虎ノ門ヒルズフォーラムで
開催する「BACKSTAGE2023」に
東京都副都知事宮坂学氏、全日本プロ
レス ヨシタツ選手が登場すること
がわかった。また、オンライン配信で
拡張版を開始、コンテンツを配信中だ。
「東京パラリンピック開会式～その舞
台裏と続きの話～」、「プライシング・
価格決定の基礎的な考え方」など当
日に向けぜひ予習を。

Pick up
the Words!

東京タワーを会場に インバウンドのイベントを開催



北野 光平さん

Wovn Technologies 株式会社
Marketing Department / Bizdev office
前職では、大手 EC プラットフォー
ムにて事業企画として従事。新規サー
ビスの企画・PMO や、事業戦略立案
を行う。2021年に WOVN にジョイン。
2022 年より BizDev・マーケティング
業務全般に従事し、自社カンファレン
ス「GLOBALIZED」の PM や、デジタ
ルマーケティング全般を担当。



月刊イベントマーケティングの公式 YouTube チャンネルでは、イベント関連のキーパーソンをゲスト
に招いて「コースケ・よーこのミュートを解除！」を毎週金曜日の 12 時から 30 分間お届けしています。
12 月のゲストは、2 日アシスト・ジャパン井上将豪さん、9 日プリプレス・センター藤田靖さん、23 日
SCAJ 広報担当宮田早希恵さん。

募集開始！

大小問わず幅広いジャンルから応募 主催者別に 3 つの部門を設定

——第 9 回 JACE イベントアワード



前回の第 8 回 JACE アワードは「第 23 回にっぽん真ん中祭り『市街地×
オンライン』開催」が受賞した

日本イベント産業振興協会
(JACE) は、「第 9 回 JACE イ
ベントアワード」の募集を開始した。
2022 年 1 月 1 日～12 月 31 日の期間
内に開催された国内外の公共イベ
ント・企業イベント・市民イベント・地
域イベント・学生イベント等を対象
に、ユニークなイベントやデジタル
と融合した新しいイベント体験を提
供する取り組みを応募する。応募期
間は 2023 年 3 月 9 日まで。

今回は、部門を 3 つに分け、(1)企業・
業界団体、(2)政府・自治体・公的団体、
(3)学生・NPO・各種団体・個人とし、
オンラインとリアルハイブリッドイ

ベント、オンラインのみのイベントも
応募の対象となる。

賞は最優秀賞 経済産業大臣賞 (日
本イベント大賞) 1 本 (賞金 30 万
円)、イベントプロフェッショナル賞
1 本 (賞金 20 万円)、部門賞各賞部
門賞受賞作品の中から、各部門別に
ゴールド 1 本 (賞金 100,000 円)、シ
ルバー 1 本 (賞金 70,000 円)、ブ
ロンズ 1 本 (賞金 50,000 円) が用意さ
れる。選考では、「コンセプト構築力」、
「イノベーション活用能力」、「オペレ
ーション & マネジメント力」、「インパ
クト創出力」、「経済波及効果及び集
客効果」が求められる。

DMM オンライン展示会サービス終了 プラットフォーム販売は継続

「DMM オンライン展示会」が
2022 年 12 月 28 日 17:00 でサービ
スを終了。それに伴い、展示会のアー
カイブサイト等も閉鎖。翌年 2 月に
予定していた「フェムテックコレク
ション 2023 Winter」は開催中止と
なる。

同サービスはインターネット事業・
コンテンツ事業を手がける合同会社
DMM.com が、2020 年より展開して
きた。

なお、オンライン展示会プラット
フォーム「EXPO CLOUD」や「META
BOOTH」の販売事業は継続される。



丸の内エリア

「コンテンツ×街づくり」内覧会を初開催

三菱地所株式会社
コンテンツビジネス創造部 兼
コマーシャル不動産戦略企画部 主事

鈴木 将敬 さん

1月23日に「丸の内エリアイベントスペース合同内覧会 #01」が初開催される。スペース活用の最適化でエリアの発信力や価値の創出にも取り組むコンテンツビジネス創造部鈴木将敬さんに内覧会の目的や「コンテンツ×街づくり」の重要性についてお話をうかがった。



—「エリア」での内覧会は初開催ということですがエリア特徴から教えていただけますか

鈴木 エリアの特徴としては、企業本社も多いビジネス街でビジネスワーカーが多く、一方で東京駅が近く地方からの来街者、商業施設へのショッピングなど、幅広い年代層のいろんな目的の方が日常から訪れるエリアです。大手町・丸の内・有楽町の大丸と呼んでいるエリアには102棟のビルがあり、約3割が三菱地所の関与するビルで、われわれ含め地権者と行政が一体となって街づくりを進めています。

イベントスペースという点では、東京駅前の丸ビル、新丸ビル、三菱ビルにホールとカンファレンス施設が密集しているほか、丸ビル等にイベントスペースが、有楽町には東京国際フォーラムがあるなど、エリア全体を活用したイベントができることが特徴です。

また、エリアマネジメントを通じた丸の内仲通り、行幸通りなど公共空間を使ったイベント実施も特色の一つとなっています。

—イベント主催者にとって選択肢の広がりはいずれの反面、申請の複雑化は悩みの一つです

鈴木 それぞれ個々の活用を考えていたことがこれまで多かったのですが、2022年4月にコンテンツビジネス創造部を設立し、一括で管理することで、最適な使われ方、効果的な

使い方を考え提案できるようになりました。

特に、商業施設内のイベントスペースは割合的にBtoC向け、ホールやカンファレンス会議室はBtoB向けの使われ方が多いのですが、一帯的に活用するエリアジャックイベントや、イベント同士の掛け算の提案で、例えば丸の内仲通りのBtoCイベントと丸ビルホール & カンファレンススクエアのBtoBイベントの参加者が相互にイベントの存在を知ることでエリアの良さに気づいて帰ってもらえるような仕掛けづくりも目指したいと思っています。

ここ数年エリマネ団体中心に開催している「Marunouchi Street Park」という丸の内仲通りを活用した社会実験では、コワーキングスペースとしてお仕事をされたり、隣で子供たちが遊んでいたりと想定外の使い方が広がっていきなかつた、発見がありました。また、繰り返し実施したなかで、この冬はティファニーさん、ルイ・ヴィトン ジャパンさんに協賛頂くなど、魅力に感じて一緒にいただける方が集まってきました。まずは自分たちが自主企画でチャレンジし、行政との調整などを経験することで、主催者の方へのサポート体制も整えていければと考えています。

—内覧会ではどんな提案を

鈴木 少しでも使用の幅を広げてもらうこと

が一番の目的です。例えばセミナーでは、ホールで記者会見をしたサービスをマルキューブで展示をし、一般の来街者への訴求ができるような一体利用ケースの具体的な提案もします。また、アフターパーティ利用として貸切対応のできる店舗紹介も予定しています。

ホール内完結のご利用から少しはみ出した展開でコンテンツの発信効果が高まることを体験いただけます。サインージの利用からでも街にはみ出す最初の一步です。

—街づくりにおいて、イベントの重要性や価値についてのお考えをお聞かせください

鈴木 われわれとしては、街づくりにおいては街の在り方や方向性に対してブランディングという意味で自主的なイベントづくりでアプローチもしていきます。

ですが、自分たちでは実現できないこともあります。魅力的なコンテンツを持っている方、一緒にコンテンツをつくっていただける方と自分たちだけでは気づいていなかったエリアの使い方をしてくださる方と仕掛けをつくっていくことで、エリア全体の価値の創出、これから進んでいく方向性へのつながりになると思っています。

いい意味でおせっかいをしながら、いろんな事例をつくっていききたいですね。

【イベント主催者・イベント関係者向け】
丸の内エリア イベントスペース
合同内覧会 #01概要

開催日時：2023年1月23日（月）
10:00～18:00

開催場所：
丸ビルホール&カンファレンススクエア
カンファレンススクエアエムプラス
新丸ビルカンファレンススクエア
丸ビル マルキューブ 他
*当日の参加受付は、丸ビル1階マルキューブ

主催：三菱地所株式会社 / 三菱地所プロパティマネジメント株式会社

参加方法：無料（事前申込制）



丸ビル1階 マルキューブを活用したPRイベント。内覧会時にはここが受付会場に



最大400席の丸ビルホール&カンファレンススクエア。内覧会のメイン会場となる



エリアマネジメントを通じたウォークブルの取組として道路空間をより歩行者中心の場に向け公的空間活用した社会実験「Marunouchi Street Park」(NPO法人 大丸有エリアマネジメント協会提供)

丸の内エリア イベントスペース 合同内覧会

2023年1月23日 開催

お申込みURL: <https://marunouchi-mec-event01.peatix.com>

開催場所

丸ビルホール&カンファレンススクエア
カンファレンススクエアエムプラス
新丸ビルカンファレンススクエア
丸ビルマルキューブ

*当日の参加受付は、丸ビル1階マルキューブ内となります。

